

セタシジミの資源回復対策

〈セタシジミ資源の持続的管理実証事業のうち、セタシジミ資源の回復対策の検討〉

事業費:1,682 千円 うち委託料:770 千円(委託先:滋賀県漁業協同組合連合会)

～事業の背景～

琵琶湖のシジミの漁獲量は、かつて 5,000 トン以上ありましたが、近年は 50 トン以下まで減少しています。県内のいくつかのセタシジミ漁場では、資源水準が極めて低下しており、これらの漁場では、親貝を積極的に導入するとともに、資源回復までそれらを保護する必要があります。



～事業の内容～

1. セタシジミ親貝保護区の設定と種苗放流

(1) セタシジミ保護対策実証事業（委託）

セタシジミの資源水準の比較的高い水域から

親貝を取り上げて、資源水準が極めて低くなっている水域に放流します。

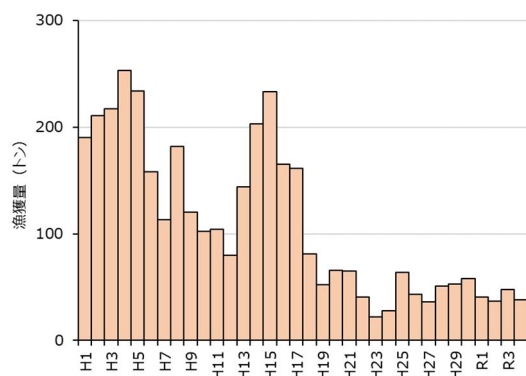
放流した場所を数年間禁漁区として、保護のための対策を講じてセタシジミ漁場の復活を図るとともに、資源状況の推移をモニタリングします。

(2) セタシジミ種苗生産放流（北湖）

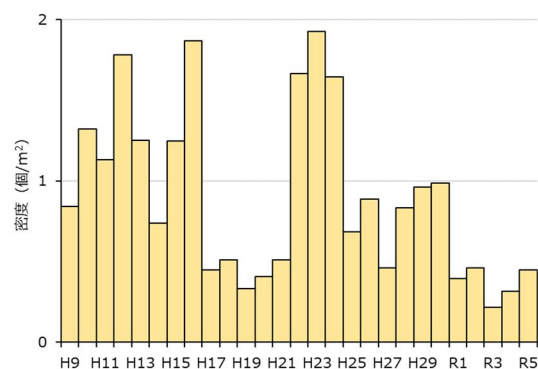
水産試験場において、セタシジミ稚貝 1,200 万個を種苗生産し、北湖の漁場に放流してモニタリングを行い、事業全体の効果を検証します。

2. セタシジミ資源回復対策検討会の開催

セタシジミ資源回復対策検討会を設け、事業の進捗管理と効果の検証を行うとともに、得られた知見を踏まえて、琵琶湖全体のセタシジミ資源状況の把握と効果的な資源回復対策を検討します。



【セタシジミの漁獲量の推移】



【セタシジミの親貝密度の推移】

水産試験場調査